

# 1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490500184		
法人名	合資会社三重福祉会		
事業所名	三重福祉会 グループホームなごみ苑		
所在地	津市豊ヶ丘2丁目4-5		
自己評価作成日	令和5年1月31日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=koubvou_detail_022_kani=true&amp;JigovsoCd=2490500184-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=koubvou_detail_022_kani=true&amp;JigovsoCd=2490500184-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和6年2月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活空間と日常支援、日々に必要な生活行動をスタッフと家族関係に近い支援を行っている。また、地域の自治体に所属し、地域活動やイベントへの参加をしている。職員に看護師が所属しており、知識の共有や、指導ができる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

津市北西部の大型団地の中にあたかも一般住宅のように建てられた事業所は、会社が意図するように家庭的で和やかな雰囲気の中で高齢者の生活を支援している。現在は男性の利用者が多い。家庭では家事に無縁であった男性が、自分のできることを受け持ち助け合いながら生活している。花壇の水やりや草取り、洗濯物を干す・取り入れるなど自由に外に出て家事をこなす、職員はおおらかな気持ちで見守っている。利用者との信頼関係が見て取れる。最近入居した女性の利用者も、掃除・料理の盛り付け・洗い物などが堪能で職員を助け喜ばれている。利用者がやり甲斐を見つけ、生き生きと笑顔で生活できるよう支援している。また、地域との連携にも力を入れており、自治会主催の行事には積極的に参加をしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目: 11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ全体の理念及びなごみ独自の理念を事務所、台所に掲示している。	理念の中の「利用者本位の生活」については、何かあれば職員ミーティングでもお互いに確認し合うところである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治体に所属しており、防災訓練や公園の掃除、回覧板をまわしたり、安否確認の黄色い旗を掲げたり参加している。	自治会の行事には積極的に参加して、その際に地域で困りごとがあれば相談してほしいと呼びかけている。利用者が玄関先で事業所の前を通る地域住民に気軽に声を掛け馴染みになっている。採れたての筍の差し入れがあり喜んだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での話し合いにより、地域へ情報配信や自治会の行事に参加することで、認知症への理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の自治会長、市役所（介護保険課）、包括支援センター、民生委員の参加で2か月に1回困りごとなどの意見交換を行っている。	2か月毎に開催し、事業所の状況や取り組みを報告して参加者と意見交換をし、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は事業所の取り組み知ってもらい意見をもらう絶好の機会である。今後は会議の内容を見直して、家族を含め幅広い分野に参加を呼びかけ、さらに魅力のある会議になることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者に運営推進会議の参加の依頼をし、ホームの運営に努めている。	介護認定や生活保護受給者のための手続きなど、報告や相談をする機会は多い。何か分からないことがあればいつでも相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全・防犯の為、玄関の施錠はしている。身体拘束委員会を立ち上げ代表者会議やスタッフ会議により、3ヶ月に1回勉強会を行っている。	身体拘束廃止に向けた会議を3か月毎に開催し、職員の研修も年2回実施している。玄関は施錠せず、利用者が外に出ることを知らせる人感センサーを取付けて職員が把握できるようにしている。利用者は自由に玄関から出入りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	メディアの情報など、身体拘束委員会で、情報共有をして、スタッフ会議や代表者会議で議論して理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は居たが現在対象者はいない。知識が薄い為、今後の為にも新しい知識を得る様にしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と時間をとり、理解と納得を得たうえで、契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、電話や、面会時に直接スタッフに伝えてもらう事が多く、その時に要望が無いか確認している。苦情には速やかに対応している。	家族の面会は、玄関付近や事務所でいつでもできるようにしている。病院受診のついでに墓参りなどに寄りたいたいという要望があれば許可している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや代表者会議、スタッフ会議での意見交換、業務日誌、全体ノートなどの活用にて、全員が周知徹底出来る様にしている。	月1回のスタッフ会議で意見交換している。欠席者で意見がある場合は、前もって書面で提出している。全体ノートを普段から情報交換に活用している。苑長と個別にLINEで相談することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人の意見などを取り入れ現状に活かし、各自の向上心を持って働けるような施設を作っている。勤務希望を聞き入れたりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部から受講内容を上げてもらっており、受講する機会を設けているが、コロナ禍の為外部への研修は出来ず、ZOOMでの参加となっている。またスタッフ会議にて勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループでの交流は、山水相談室を設け他施設との交流、実務調査を兼ねての訪問など、積極的に行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者にも施設見学をして頂く。施設見学が困難な場合は、実務調査を行い、家族や本人と十分に話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や面会の時には、家族の思いに耳を傾け、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族から話を聞き、何を求められているのかを知り、サービスに繋げるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存能力を活かし、職員が寄り添いながら一緒に暮らす姿勢で支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要時の電話連絡の際に利用者の様子を伝えたり、相談を行いながら、職員と一緒に利用者支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナも5類に変わり情勢も変わってきている為外出の機会を増やしている。面会は短時間、検温や消毒の徹底を行っている。	2か月毎に来る訪問理容師とは長い付き合いになっている。病院受診の際に家族と馴染みの店で外食をしたり親族と会うことが楽しみな利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係が円滑になるようにスタッフが見守り、関わり合える様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了後でも必要に応じ、相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や思いを傾聴し、意向に添えるように努めている。また困難な場合は、本人の表情や行動を見ながら対応したり、必要に応じて家族にも支援をお願いしている。	利用者の思いを大切にし、やりたいことをしてもらっている。一人ひとりの能力や意欲に沿った活動を手探りしながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や今までの暮らし方を把握して生活環境を整え安心し、その人らしい生活が出来るように務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カルテに記載。申し送りで共有し、個人の心身状態を把握して生活環境を整え安心してその方らしい生活ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態の観察を行い、小さな変化にもスタッフ間で報連相を行い、ケア会議を行いその時々々の現状に応じた介護計画を作成している。	担当職員が個別処遇申し送り事項を月毎にまとめスタッフ会議で発表し、全員で意見交換している。介護支援専門員が「できること できないことシート」にまとめ利用者の現状を見える化し介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテの記録に内容の実践、取り組み、気づきを記入し、スタッフ同士で情報共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	連携病院があり、急変時には連絡がとれ、対応することが出来る。同グループ内での移動も可能。マニュアルに束縛されず柔軟性を持って個々の希望に沿ったサービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で開催されている行事や活動に積極的に参加し活躍できる場を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と緊密に関係を築き、受診、月2回の往診、夜間の急変時にも対応して頂けるようにしている。	一人の利用者を除き、残り全員が協力医を主治医としている。介護支援専門員が看護師でもあるため、何かあっても医師との連携もスムーズで安心である。家族の付き添いで専門の科を受診する際には必ず手紙を添えて報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に相談、往診時にも相談や指示が仰げる体制がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護情報書を作成し、情報の共有が出来る様にしてしている。利用者の入院時は、安心して治療に専念できるように家族、病院関係者と情報交換し、早期に退院できるように関係作りに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族へ報告、緊急時の対応など早い段階で報告相談、更に毎日の申し送りにて緊急時の対応をスタッフに伝え、周知させている。また協力医への報告もしており、万が一の連絡も確保している。	入居時に将来の意向を聞き同意書ももらっている。状態が悪化して終末期を迎えた時には改めて確認し、要望があれば医師と相談しながら看取り支援をしていく。看取り状態になれば事務所近くに居室を移していつでも対応できるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医のもと、急変時の対応を管理者、看護師及びスタッフで話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている。備蓄にレトルト食品等用意している。地震に関しては、地区で行うシェイクアウト訓練等実施（年2回）	年2回の防災訓練に加え、地域の自主防災講習会も受講して、訓練の際には「わが家はだいじょうぶ」と書いた黄色い旗を掲げて参加している。備蓄として水やレトルト食品も多めに用意している。	居室の背の高い整理筆筒などの家具の転倒防止策を工夫して行い、備蓄の消費期限を一覧表等で管理されること期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護をしているのではなく、お世話をさせて頂いているとの精神で一人ひとりの人格を尊重し、その方の性格等把握し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者一人ひとりの「できること・やりたいこと」を継続してもらい自信に繋げている。職員は感謝の気持ちを持って働きかけている。居室に入る時には必ずノック・声掛けをしプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気兼ねせず、希望や思いを発言できるように働きかけ、自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者、一人ひとりの体調・気分を把握し、その日どのように過ごしたいか本人の希望に沿った支援を心掛けている。レクも全職員で参加している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類に季節や過度なことが無い限り、個人のことのみに合わせて支援している2か月に一回訪問理容をしており好みのカットを受けて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ごはん・汁物は職員で調理、副食は業者に依頼。食事のメニューを書いて頂いたり、可能な限り利用者とテーブル拭き、準備、下膳、行っている。行事の時には、一緒に作り楽しんでもらっている。	食事は利用者の楽しみの一つである。3食のメニューをホワイトボードに綺麗に書くことやテーブル拭き、料理の盛り付けなど役割分担している。誕生日には要望に沿ったメニューに切り替えみんなで楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりが食べる量・水分量を記録し、体調管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立できる利用者様にはお声掛けで促す。支援の必要な方は介助・見守り支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立で排泄できるかの見守りと介助が必要な方の排泄の表を使用し把握を行い、個々の能力に応じた排泄援助を行う事で、出来るだけ自立に向けた支援を行っている。	ほぼ自立している利用者が多いが、見守りや声掛けは必要である。便の形状や量を果物などになぞらえたブリストルスケールを使い本人に確認し把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力医と相談して、個々に応じた便秘予防と対応を行っている。必要に応じ、漢方薬や下剤服用で、調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調などを十分に観察をして入浴への声かけをしている。ゆず湯など季節も感じられるよう取り入れている。	週3回を基本とし入浴介助しているが、現在は殆どの利用者が自立して入浴できている。浴槽に入ることが困難になった際にはリフト浴に切り替えが可能である。入浴の順番は希望を聞き行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や十分な睡眠がとれるように、状況に応じた衣類・室温調整を行い安息を知って頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化に気を配り医療連携を基に常に往診時、薬剤師・協力医・スタッフと共有して服薬支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフと一緒に楽しむことにより信頼関係を築き、レクで作成や食事やTVで気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナも5類になった為、晴天時には玄関先のベンチで過ごしたり、車を使って外出したり天候や気温によっては近くを散歩したり公園でゆったりとしている。面会される時は引き続き検温、アルコール消毒、来苑者問診表などを使い対応している。	日頃から事業所内に閉じ込めることがないように、いつも玄関はオープンにしている。晴れた日には玄関先のベンチで過ごしたり、近くの公園に散歩に出掛けて花壇の花々を観て楽しんでいる。花見や初詣にはドライブを兼ねて出掛けた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者で管理のできる方には所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話連絡は本人の希望に応じ、いつでも電話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は利用者や面会に来られた方が不快な思いをさせることなく音量や障害物に配慮し、観葉植物の配置や季節を感じられるような物品の配置を行い居心地よく過ごせるように努めている。	玄関からリビングにはいろいろな手作り作品が並び、特にみんなで作成した季節の壁飾りが目を引く。季節の変わり目には、利用者の方からそろそろ別のものに替えるよう要望があるという。利用者にとって楽しみな空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席の考慮と空間づくりをしており、制作の展示や行事の写真を展示している。それぞれの居場所（食堂・居間）でゆったり過ごせるように腰掛やテーブルを配置し、自由に居心地よく過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人に合わせて、ベッドの配置や棚の配置、飾りをして頂いている。使い慣れた家具を置き、温度や湿度に気をつけてゆっくり過ごせる自室となっている。	居室のほとんどが2階にあり、センサー搭載のベッド・エアコン・整理筆筒が整備され、どの部屋も綺麗に掃除が行き届いている。2階に上る階段は利用者の下肢のリハビリに役立っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人に応じても居室の配置、名前による目印を使用し迷いによる不安がないようにしている。利用者の安心・安全に心掛け、日時が分かる様にカレンダーを配置、階段には手すりをつけ、その方の能力に応じスタッフの見守りを行っている。自立した生活が出来る様に環境作りを行っている。		